

意見書案第 3 号

陸上自衛隊岩見沢駐屯地の改編（定員削減）について

別紙のとおり意見書案を提出する。

平成28年 3 月22日提出

提出者議員	伊	澤	幸	信
〃	石	黒	武	美
〃	斉	須	正	友
賛成者議員	篠	原	藤	雄
〃	豊	岡	義	博
〃	谷	口	洋	一
〃	野	尻		清

陸上自衛隊岩見沢駐屯地の改編（定員削減）に関する意見書

自衛隊は、国の防衛を主任務とし、その他、国内外における人命救助などの災害派遣や国際連合平和維持活動への派遣などを任務として活動する組織である。

平成23年に発生した東日本大震災においては、自衛隊は発生直後の情報収集、被災者の捜索や救援活動、生活支援、物資の輸送支援など、広範囲にわたる活動が行われ、この自衛隊の活躍は、国民をはじめ、国際社会からも高い信頼と評価を受けている。

さらに、近年、我が国周辺地域をはじめ、国際的な安全保障環境が大きく変化している中、平成27年9月19日には「平和安全保障関連法」が成立し、今後、この安保法制に基づき、我が国の安全保障と防衛政策が新たな局面を迎える上でも、自衛隊の高い組織力と高度な専門能力・マンパワーは、我が国の安心安全を維持するために必要不可欠である。

陸上自衛隊岩見沢駐屯地は、昭和28年2月に第532施設大隊として現在地に開設され、その後、駐屯地の基幹部隊として第102施設大隊を経て、昭和51年3月に現在の第12施設群が発足している。

63年余りの長い伝統を有し、有事の際や災害派遣などはもとより、地域住民の安全安心、地域コミュニティの維持・活性化に大きく貢献・寄与されるなど、岩見沢駐屯地の隊員は、地域住民からも、日頃から「誇るべき市民」として、広く認知され、高く評価されている。

訓練環境においても、隣接する孫別演習場を有し、北海道大演習場や上富良野演習場へのアクセスもよく、岩見沢駐屯地は、部隊が訓練するための良好な立地状況にある。

国の平成28年度予算では、岩見沢駐屯地の改編（定員削減）が、盛り込まれており、かねてより岩見沢駐屯地の充足率の向上、機能強化を求めてきた地元地域住民としては、決して納得できるものではなく、大変遺憾である。

ここに、岩見沢市議会は、地域住民の意思として、この岩見沢駐屯地の改編（定員削減）に反対するとともに、定員の確保、実員の維持、定員に対する充足率の更なる向上を強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

平成28年 3 月 日

岩見沢市議会

提出先

内閣総理大臣
防衛大臣
衆議院議長
参議院議長